

さくらインターネット株式会社 朝倉恵さん



データセンター外観



サーバールーム



～石狩市でテレワークをしている朝倉さんにお話を伺いました！～

2012年6月にさくらインターネットに入社。石狩データセンターにて運用リーダーを経験し、現在は「さくらの学校支援プロジェクト」を立ち上げ、石狩市内の小学校を中心に、全道各地のプログラミング教育支援に携わっています。

テレワークとは？

ICT（情報通信技術）を利用した場所・時間にとられない働き方のこと

企業概要、女性社員の割合

さくらインターネットは、1996年の創業以来、データセンター事業を中心とした高品質なインターネットサービスの提供に努めてきました。以降、インターネット環境の変化とともにお客様のご要望にお応えする多様なサービスを開発し、お客様のビジネスを支援。現在も、絶えず新たな事業の実現に取り組んでいます。

女性社員の割合は22%で、管理・バックオフィス系の職種では60%、エンジニア系では10%が女性です。

仕事の内容、やりがい

IT系の職種に就く前に幼稚園教諭だった経験を活かし、2017年にプログラミング教育支援のプロジェクトを立ち上げて3年経ちました。今ではこの活動に賛同してプロジェクトに参加してくれるメンバーも増え、「支援先にも会社にも貢献できている」という実感が持てることにやりがいを感じます。また、プロジェクトの運営に当たっては、これまでに経験したことのない課題に対応する必要があり、いくつになっても成長できるということが、大変でも喜びでもあります。

企業の勤務形態や福利厚生・休暇制度について

さくらインターネットの多様な働き方を尊重する取り組み「さぶりこ」では、自身のライフスタイルに合わせて働き方を選択していけるようになっています。私が主に活用しているのは「どこでもワーキング（テレワーク）」や「ショート30（業務が片付いたら定時の30分前には退社OK）」「フレックス（勤務時間のスライド）」などです。出産・子育てなどの限定した条件に限らず、社員みんなが柔軟な働き方を選択できるため、活用しやすくなっていることや、プライベートで得た知見を仕事に活かすという考え方も、この制度の良さです。

「さぶりこ」についての詳しい情報は、以下のWebサイトをご覧ください。

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/corp/sabulico/>

テレワークなど各種制度の活用について

「どこでもワーキング」や「フレックス」を活用することで、同居している両親の買い物・病院などへの送り迎えができるようになりました。私が自宅に居れば両親も遠慮せずに頼んできますし、私も高齢の親の運転を心配しなくて済むので、大変助かっています。

小学校を一時的な勤務先として「どこでもワーキング」を行うことで、小学校のプログラミング教育支援以外の業務も、授業と授業の合間に学校の中ででき、時間を有効に使うことができました。

東京で一人暮らしをしていた時期も、「フレックス」を利用して宅配便の受け取りや、「ショート 30」を利用して大学の講座に参加するなど、制度を活用できました。

テレワークをする前に不安だったこと、実際にしてみてどうだったか

最初は、自分が時間の管理など自制をしっかりでき、成果を出せるのかどうかが一番不安でした。周りから給料泥棒…と思われぬか…と気にしていました。

ですが、自分で立ち上げたプロジェクトの業務をメインにしているモチベーションも高いため、予定を詰めすぎてたり、急な予定に対応するため、まとまった休みを取らないことが増え、逆に「長時間労働にならないように」「休暇を取るように」と気を使うことが増えてきました。また、成果の表し方を工夫するために学んだことも多く、成長の機会となりました。プログラミング教育支援の業務でも、教育効果を測る指標について考える機会は多いのですが、自身の成果を評価して、普段の業務を見ていない評価者がわかるように伝えるということは、業務にも直結する学びの機会でした。

社員と顔を合わせるものが減って、コミュニケーションが不足することも懸念でしたが、それについては自分で機会を作って会いに行ったり、社内イベントに積極的に参加したりするようにしています。

これからのテレワークについて

データセンターサービスの運用においては、普段からネットワークやソフトウェアの監視、保守は3エリア（東京、大阪、石狩）の社員がシフトを組み、全てリモートで情報共有をしながら作業を行っています。

運用チーム以外の社員においても、平時に各自の都合でテレワークを行うことを推奨していますが、普段から社員がそのような環境に慣れておくことで、大阪本社や東京支社などでは、度重なる台風や豪雨災害による通勤困難にも対応でき、社員の安全を確保しながら業務を遂行してきました。

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震では、東京、大阪、石狩をTV会議やチャットでつないで対策会議を開き、丸2日間の停電を乗り越えてサービスの提供を続けました。

選択肢が多く、柔軟な働き方が可能であることの裏には、各自が誰も見ていなくてもまじめに働き、自分の責任において判断ができる、そして会社が従業員を信じているという前提があります。

テレワークを導入し、それをいつでも誰でも使えるようにし、会社全体にそれを使って生産性を高められる「文化」が根付いて、初めて効果を得られるものであると思います。

ある一日のスケジュール



9時30分

Web上でタイムカードを打刻し、自宅で業務開始
Slack（チャットツール）でプロジェクトメンバーとやり取り



12時

自宅で昼食を取り、休憩
この間にちょっとした家事や、趣味の編み物などをする



13時

石狩市内某小学校へ移動
データセンター勤務の時と比べて、1日の移動回数が少なく効率的



14時

某小学校で教員向けのプログラミング教育研修会を実施



17時

携帯を使い、Zoom（TV会議システム）で配信されている中期経営方針共有会の中継を聞きながら移動



18時30分

帰宅後研修会の様子を Slack でプロジェクトメンバーに報告し、Web上でタイムカードを打刻して業務終了

今後の目標

石狩や北海道の子どもたちがプログラミングに親しみ、自分を含めた周りの大人たちも一緒に成長して行ける場を作っていきたいと思います。

将来の職業について悩んでいる人へのメッセージ

私は子どもの頃の夢だった幼稚園の先生になった後、30歳を過ぎてからITの世界に転職しました。今の職場が実はこれまでで一番長く所属していて、その前まではたくさんの転職を経験してきました。

幼稚園という人数比率的に女性優位の業種から、今では男性優位の業種になりました。男性に負けないうために、男性以上に成果を上げることを意識したこともありましたが、今では性別には関係なく「自分らしさ」を活かして活躍することを意識しています。

自分らしさは最大限に活かしつつ、自分のやりたいことを実現させるためには、自分に足りないことやできないことにも目を向ける必要があります、それが成長につながっていると思います。

そして、なぜ私は仕事をするのか？と考えた時、その答えは「人の役に立ちたい」でした。「自分らしさ」と「なぜ仕事をするのか」をしっかりと見つめて仕事を選んでいくと、きっと満足できる仕事に出会えると思います。